



## 29年前の矢巾町を 紹介しているかるた

平成元年9月、矢巾町の名所や旧跡、特産品などの由来を紹介する「やはばかるた」が発行された。かるた遊びを通じて矢巾町を紹介し、後世に伝承する目的で制作したと「やはばかるた創作の由来」に記されている。

かるたは大きさ縦8センチ、横6センチで、札は44枚ある。読み札は「は」で「早駕籠の 江戸へすつ飛ぶ 松並木」というように俳句長で記され、絵札の後ろには解説が付いている。

昭和63年度に徳田小学校を卒業した児童103人が、卒業記念として「徳田かるた」を作った。やはばかるたは徳田かるたを参考して、町教育委員会が発行。発行に携わったのは、徳田地区の自治公民館の代表者11人、不來方高校芸術学系の生徒8人、徳田小学校と不來方高校の教諭6人だった。

徳田かるたに関して広報やはば第398号（平成元年4月1日発行）に、このように記されている。

町教育委員会では「青少年の健全な育成」を目指し各振興区ごとに教育振興運動を進めていた。その中で徳田振興区では、徳田小学校（当時の校長は池元道雄氏）が中心となり運動の一環として「徳田かるた」づくりに取り組んだ。

子どもたちに自然や歴史、文化とふれあってもらい、古里に「回帰」する心を持ってもらおうとの狙いで、徳田地区の自治公民館の代表ら11人で「徳田かるた実行委員会」をつくり進められた。実行委員会で徳田地区の文化や習慣などを参考に読み札を考え、児童は読み札のイメージに合った絵を自分たちで考え制作に取り組んだ。徳田かるたが完成した際は当時の町長（故谷村長三郎氏）を呼んで、お披露目会を開いた。

29年前の町民が考えた、町の名所や旧跡、特産品を紹介する「やはばかるた」がどんなものなのか。このかるたを手にとって、皆さんで一度遊んでみてください。

絵は徳田かるたを基に不來方高校生が書き直しました。



やはばかるたは、町歴史民俗資料館で販売しています。  
興味のある方はお問い合わせください。

◆価格:800円(税込み)  
◆問い合わせ:町歴史民俗資料館(☎697-3704)



自然・農作物・名所などを紹介する絵札と読み札



児童が作った原板絵札 (写真上)  
不來方高校の生徒が作った普及版 (写真下)



休み時間を利用して制作



読み札の内容は、実行委員会でアイデアを出し決定



原板を作った昭和63年度に卒業した児童



徳田かるた制作時の徳田小学校の校長だった  
**池元 道雄さん**  
(89歳、矢巾1区在住)

1927年生まれ、旧安代町(現八幡平市)出身の池元道雄さん。

小学校の頃から俳句が好きで、若いときはよく新聞社に俳句を投稿していた。現在は町内俳句サークルで、先生として活躍している。

徳田かるた制作は、当時徳田小学校の校長池元さんの発案だった。

徳田小学校は徳丹城跡の中に建つ小学校。この特徴を生かして、「子どもたちに地区の文化、

風習、生活を教えるために注目したのはかるただった」と池元さんは話す。

子どもたちだけでなく、地域の人も巻き込んで、みんなで作ることを大切にしたいとのこと。地域の人には、風習や文化など読み札になる材料を教えてもらった。子どもたちは初めての体験で、楽しい思いと苦しい思いをしながら、完成に向かっていったと池元さんは当時の様子を回想した。